



友だち、努力

- 文趣両立。
- いつでも明るく面白い仲間の13Rに感謝しています。
- 毎日毎日やらなければならないことばかりで、よくやってこれたなと思います。
- もっと勉強すればよかった。
- ただ暗記するだけのつまらない今までの授業とは違って、とても濃く、楽しい授業。
- 自分とは違った考え方に触れることができる良さ。
- 周りの人から多くのことを学ぶことができると実感しました。
- 手を抜くような悪い「馴れ」も出てきてしまった。
- 中学校のころとは比べものにならないくらい充実していた。
- 笑顔が13Rにはいつも溢れていて。
- 光り輝く自分になれているのだろうか。
- (勉強も部活も)「中途半端な自分」=「悪いところがない自分」とポジティブに捉えようと思う。
- 友人、これが一番の難題だ。
- 今まで経験したことのないほど、刺激を受けた一年であった。
- 自学自習の大変さを知るとともに、その重要さを噛みしめることができた。
- お互いに作用しあっているような感じになる素晴らしい友人がたくさんできた。
- 入学時の思いを取り戻して、目標に向かっていきたい。
- 高校生活になれて、だんだんと怠惰になっていった。楽しいことを優先して、嫌なことを後回しにする悪い癖がぬけず。

- 自分の意志が成績や将来に直結するということに恐ろしさを感じる。
- 泥棒役者という一つの作品をつくりあげたことは、私にとって一生の思い出になった。
- かつてよりも勉強がずっと面白いのは、日比谷に来て出会った友だちのおかげだ。
- 中学では遅刻の常習犯でしたが、日比谷高校入学以降は、電車の遅延以外での遅刻はありません。
- ①毎日が楽しい②毎日何かに追われている③友だちがいる…この三つが、時間が経つのだ早いと感じる理由です。
- 部活にも勉強にも全力で取り組んでいる仲間を心から尊敬しました。
- 勉強面でどれだけやっても周りに追いつけないと思っていたが、部活で味わった達成感を通して、これからは悔いが残らないようにしたいと思うようになった。

*

…と、まだまだ引用できるところは沢山あるのだが、多くの人が述べているのは、友だちの素晴らしさであり、日々の努力の大切さである。そして、そのことは既にみんなも自覚しているに違いない。

担任としては、その自覚をぜひ日々の生活の中で生かしてほしいと思う。前にも書いた通り、「やれば出来る子」は「やらないから出来ない子」に過ぎない。日比谷での生活を通して、そのことは身にしみて分かったはずだ。だから、素直な気持ちで努力しようではないか。努力して向上することの喜びを分かち合える素晴らしい仲間もいるのだから。